国語科学習指導案

[redacted]

１．対象学級：２年５Ｈ、６Ｈの合同クラス３４名（男子７名、女子２７名）
２．実施日時：２０２１年6月２８日月曜日
３．実施場所：２年５Ｈ
４．単元名：随筆「枕草子―中納言参りたまひて」『精選古典Ｂ改訂版』（文修館書店）
５．単元について

（一）単元の目標

ア…敬意の方向を含めた敬語の意味や種類を正確に理解できる。また、それらを応用しながら、動作の主語や会話の話者を特定できる。（知識・技能）

イ…当時の時代背景に対する理解を深めながら本文を読むことができ、登場人物の人物像を把握できる。（思考力・判断力・表現力）

ウ…この題材から読み取れる主題や、話のおもしろさは何かということについて、他者の意見を取り入れながらも、自分自身で結論を出せる。（学びに向かう力・人間性等）

（二）教材観

本作品は平安時代の代表的な女流文学の一つであり、また、三大随筆の一つでもあるため、生徒にとっても聞きなじみのある作品であるといえる。登場人物が三人と少なく、文量も多くないため比較的読みやすい文章である。しかし、文章中には多くの敬語表現が登場するため、それらの用法を正確に理解することが本文読解のうえで必要となる。本教材を学習することで敬語の基礎的な知識・技能の定着を図りながら、登場人物の人物像や話のおもしろさを考えることによって、生徒の豊かな感受性を育てる契機となると考えられる。

（三）生徒観

対象クラスの生徒たちはほとんどが進学を目指している生徒たちで、なおかつ習熟度別のクラス分けでも上位のクラスに所属していることから、学習に対する意欲は総じて高い。自ら全体の場で挙手をして発表したりすることはあまりないが、話し合いや教え合いといった言語活動では、積極的に意見を交流し、自分の意見を伝えられる生徒が多い。敬語表現については一年生の時に軽く触れている程度で、その用法や敬意の方向についてはほとんど理解ができていない状況である。

（四）指導観

「中納言参りたまひて」は、読解のために〈敬語の用法〉と〈敬意が誰から誰に向けられたものなのか〉を理解することが必要になる。そのため、敬語については板書を用いながらしっかりと教員が説明する。そして、既習の助動詞や動詞の意味、敬語の用法、文法事項などはペアワークで隣同士確認する時間を設けることで、生徒が知識や考えを他者と共有す

ることができる。そうして話の構造や語彙の意味をつかんだうえで、作品の主題や面白さというものを生徒たち一人一人に考えさせたい。

（五）単元の評価基準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
ア：古典に用いられている語句の意味や用法を理解できている。 イ：敬意の方向を含めた、敬語の種類や意味を正確に理解できる。	ア：内容を本文に即して正確に読み取れる。 イ：登場人物の人物像を本文から読み取れる。 ウ：本文の叙述からこの話のおもしろさを読み取ることができ、それを説明できる。	ア：本文の時代背景などについて、自ら理解を深めようとしている。 イ：他者の意見に同調するだけではなく、自分で本文に対する意見や見解を考え、述べることができる。

（六）単元計画（本時は５時間目）

時間	各時間の目標	主な学習活動
1	○当時の時代背景に触れながら、登場する人物たちの関係を把握する。	・『枕草子』という作品の確認 ・本文の音読、読みの確認
2	○敬語の用法を理解し、本文に即して訳すことができる。 ○会話文の主語が正確に理解できる。 ○登場人物の人物像を把握する。	・敬語の基本的な知識確認（復習） ・二重敬語の説明 ・ペアワークによる敬語の種類分け ・会話の主語の特定
3	○敬語の用法を理解し、本文に即して訳すことができる。 ○会話文の主語が正確に理解できる。 ○登場人物の人物像を把握する。	・ペアワークによる敬語の種類分け ・係り結び ・登場人物三人の人物像を捉える ・会話の主語の特定
4	○敬語の用法を理解し、本文に即して訳すことができる。 ○会話文の主語が誰か正確に理解できる。 ○登場人物の人物像を把握する。	・ペアワークによる敬語の種類分け ・撥音便の説明 ・登場人物三人の人物像を捉える ・会話の主語の特定
5	○この章段の「かたはらいたきこと」とは何なのか自分でまとめ、伝えられる。	・この章段で清少納言のいう「かたはらいたきこと」は何か、他者の意見と交流しながら、自分自身で考える。

（七）本時の指導計画

・目標：「これまでの学習を踏まえて、清少納言の言う〈かたはらいたきこと〉が何なのか、文章中の記述を根拠にして自分で答えを出せる。」

・持参物：教科書、ノート、必修古典文法

・本時の展開

学習内容と言語活動		指導上の留意点	評価基準
導入5分	○前回までの復習 ①敬語の用法の確認 「のたまふ」「聞こゆ」	①それぞれの敬意の方向を含む敬語の種類や意味について考えるよう指示する。また、一方の生徒の発言に偏らないように教員は順番を示しておく。（例：「のたまふ」は廊下側の人が、「聞こゆ」は反対のひとが隣の人に教えてあげてください。など）	○意欲的に言語活動に取り組んでいる。（学びに向かう力・人間性等） ○敬意の方向を含む敬語の種類や意味を説明できる。（知識・技能）
	②二人一組で本文の音読	②歴史的仮名遣いの読み方に注意しながら読ませる。	
展開40分	○本文解説 ①最終段落「かやうのことこそは、かたはらいたきことの～いかがはせむ。」の品詞分解、意味の確認（１０分）	①隣の席との確認を用いながら、既習の助動詞や文法事項を全体で確認する。	○正しく動詞や助動詞の意味・活用・接続を説明できる。（知識・技能） ○文章から話の構造を捉えて、それを他者に説明できる。（思考力・判断力・表現力等）
	②本作品の振り返り ワークシートを用い、自分たちでこの作品を７コマのイラストとセリフに変換する。 〈個人５分、グループ７分の合計１２分（予備３分〉→５人×６グループ、４人×１グループの計七グループ	②事前にワークシートには、初めのコマと最後のコマにイラストとセリフを入れておく。そして、生徒たちには自分で考える時間とグループで意見を交流する時間を与える。その際、意見の発信に消極的な生徒もいるため、教員が発表の順番を指定しておく。また、感染症	○問いに対して自ら答えを出せる。また、他者の意見も踏まえたうえで再度自身の考えを決定できる。（学びに向かう力・人間性等） ○意欲的に活動に参加し、

	③グループでの活動の後、最も本文の内容に沿っているものを各グループで一つ代表として選ぶ。発表者はそれぞれ他グループに移動して、自分たちの作品を発表する。 （５分×３組の１５分）	予防のため、席を近づけることなく、十分に距離を取って活動をすることを指示する。 ③一人に役割が集中することがないように、教員は各グループの司会、発表者、書記の役割を指名する。役割のない生徒は批評家として話し合いに参加する。	与えられた役割を実行したり、他者の意見を聞いたりして、その意見を批評しようと取り組んでいる。
まとめ５分	④これまでの学習から、清少納言の言っている「かたはらいたきこと」とは何なのか結論を出す。	④自分で考える時間を取ってから、隣の人と意見を交換する。交換が終わった後、教員が板書に模範解答を書く。	○話の構造を捉え、正確に「かたはらいたきこと」が何を示しているのか説明できる。

「中納言参りたまひて」ワークシート

二年（　）H　氏名（　　）

○今までの学習内容を基に、「中納言参りたまひて」を知らない人にも伝わるような、イラストとセリフに作り替えよう。

（このような）
（見苦しいことのうちに入れるべきだけれど、
「一つも漏らすことなく書け。」とみんなが
言うので、しかたなく書いておく。